

Chrysochroa と *Cryptodactylus* との二属の Diagnose を新に加へることが出来た。

本科の幼蟲を幾つかの型に分けることは、BURKE, H. E. や ESCHERICH, K. (1923) が行つてゐるが、之等は何れも少し物足りない所があるので、著者は之を次の三型に分けるのがよいと思ふ。

- (1) 第一型(タマムシ型)—オタマジャクシ形。前胸は大變扁平で非常に擴大し、圓盤狀。中後兩胸は短く、横位。前胸は中後兩胸、及び時には第一腹環節と共に幅廣い頭様、残りの腹環節は尾狀附屬物の觀を呈する。第十腹環節は圓く、非常に小さく、後端には肛門の縦の切目があり、叉狀突起を有しない。前胸硬皮板は大きく、よく發達する。體に刺毛多し。樹皮及び木質中に穿孔。蛹室は外部と一個の通孔を有するに過ぎない。(*Chrysochroa*, *Chalcophora*, *Lampra*, *Chrysobothris*)
- (2) 第二型(ナガタマムシ型)—大體圓筒形。前胸は僅に扁平。残りの環節は斷面略々圓形。中後兩胸及び第九、十腹環節を除けば約同大。第十腹環節は一對の強くキチン化した叉狀突起を有する。前胸硬皮板は餘り發達しない。體の刺毛は比較的少い。樹皮及び木質中に穿孔。蛹室は外部と二個の通孔を有す。(*Cryptodactylus*, *Agrilus*)
- (3) 第三型(チビタマムシ型)—楔形又は紡錘形。極めて扁平。體の各環節は兩側方に突出して境目は判然。叉狀突起はない。ambulatory tubercles 發達。葉肉内に潛入す。蛹化は葉中に起る。(*Trachys*)

斯様に型を判つことは分類學上有益なばかりでなく、生態事實と極めて密接な關係のある點で興味深い。

食餌植物としてはタマムシ、ムツボシタマムシ、クリヒメタマムシの上記の食餌はすべて新記録である。

幼蟲の食性を通觀すると、*Agrilini* を除いた他のものは枯死乃至衰弱せる樹木を而も多種類に亘つて食するものが多く、*Agrilini* は概して生木の、且つ、限定された種類を食する様である。従つて應用的に云ふと、前者は第二次害蟲を、後者は第一次害蟲を多く含む様に思はれる。而して、數の上では後者が多く、其の食餌植物中には果樹や庭園樹、街路樹等を多く含んでゐるから、應用昆蟲學上なかなか輕視すべからざる昆蟲である。

XII. 日本に於ける珍らしき昆蟲一種

北上四郎 (京都)

Kashmir の高地より得られた双翅類昆蟲より 1922 年一科 *Deuterophlebiidae* が F. W. EDWARDS によつて設立された。 *Deuterophlebia mirabilis* な

る一屬一種が含まれてゐる。ついで Central Asia 及び Yellow Stone Park よりその種とおぼしき幼蟲竝に蛹が報告されてゐる。1926 年以後日本に於てもその科の幼蟲蛹及び♀が見出され、それ等はおそらく前記の種と同種ならんと思はれるが、積極的同定は♂を得てはじめて可能なるものと考へられる。成蟲は體長 2 mm あまり、その翅は薄膜狀で正常の翅脈を殆んど缺き、その代りに極めて著しい所謂 secondary venation を有する。觸角は六節よりなり、それは♀では極めて短小であるが♂では最後の節が著しく延長して體長の約六倍もある。なほ口器及び單眼を缺く。幼蟲は蛹化近きもので體長約 4mm, 體は扁平、體節制明瞭、眞頭性にして各胸節も明瞭、腹部には八節が認められる。第一乃至第七腹節の外縁部は著しく延長し、夫々その先端部に數多の小鈎を有する。小鈎は約十個の同心的の環をなして配列し、環の中心部は腔所をなし、鈎ある部分はポケット狀に出入することを得る。觸角は biramous 二節よりなり、第二節は不等長の背腹二片よりなる。最後の腹節腹面には五個の呼吸絲がある。蛹は長徑約 2 mm の扁平楕圓體で、前胸外縁部には三個の呼吸絲ある一對の突起があり、前中胸部の背中線に一つの縫合線があつて、その線を左右に開いて成體は羽化する。第三乃至第五腹節の腹面の外縁部には夫々一對の楕圓形の盤があり、それによつて體は岩面に膠着する。又第一第二及び第六第七腹部の外縁部には夫々小形の鋭き棘が若干ある。此の科は明らかに亞目 Orthorapha-Newatocera に屬し、他の諸科との類縁は餘り明らかでないがおそらく Blepharoceridae に近きものと考へられる。日本では京都附近の鞍馬、眞船、愛宕、坂本、信濃の徳本峠、越中の小瀬峠、飛驒の白川郷等で知られてゐるが、おそらく至る所の山間の溪流に見出されるものと考へられる。此の科の幼蟲及び蛹の體制は環境によく適應し、一般溪流動物と共に所謂 convergence の現象の好適例をなすものである。

XIII. 邦産シリアゲムシ科昆蟲の雄のゲニタリアに就て

一 色 周 知 (臺北)

第九腹節の附屬肢なる生殖肢 gonostyles は二節あり。其基節 basistyles は甚だ大となり基半で左右相癒着し挿入器 aedeagus の基部を圍む。生殖肢の端節 dististyles は所謂鉗をなす。aedeagus は一對の腹片 ventral valves と一對の背片 dorsal valves とよりなる。第九腹板の後方に延びて basistyles の腹側に接する部を hypandrium, 同背板の延びて basistyles の背側にある部を epiandrium と云ふ。第十腹節は尾毛 cerci を有し epiandrium と basistyles との間に位す。第十一節は其先にありて肛門管 proctiger をなす。